授業科目等の概要

（医療関係専門課程（臨床検査科））2019年度

必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			倫理学	コンプライアンスを含め医療における倫理について考え、その歴史から倫理の重要性と現代医療人としての資質の涵養を図る。	1・前期	20	1	○			○		○		
○			心理学	HIV検査相談についての講義やグループワークを通して、受検者や陽性者の心理、経過、支援を学ぶ。心理学の各分野を概論的に学ぶ。	2・後期	20	1	○			○			○	
○			社会学	医療従事者、社会人になるにあたっての社会的知識を学ぶ。医療の歴史、医療組織、医療法など医学全般的に学ぶ。	1・後期	20	1	○			○		○		
○			法学	法の概念及び医療関係法規を中心に学ぶ、特に臨床検査に関する法律に国家試験に言及する。	2・前期	20	1	○			○		○		
○			数学	統計学の基本的な考え方を理解し、データ解析のための適切な方法の習得を目的とする。	1・前期	30	1	○			○			○	
○			物理学	「光のはなし」を中心にしながら、身の回りの出来事を解説する。	1・後期	30	1	○			○			○	
○			生物	生物学の知識を整理することにより、高校で学んだ生物学をより深く理解する。	1・前期	30	1	○			○			○	
○			化学	臨床検査技師教育に必須の「生化学」「化学分析」「化学分析検査学」などを学ぶために必要な基礎知識を習得することを目的とする。	1・前後	60	2	○			○			○	
○			英語	臨床現場で用いられる医用英語の基礎を学ぶ。	1・前後	60	2	○			○			○	
○			医用英語	医療現場で使われる医療用語を学ぶ。	2・前期	30	1	○			○			○	
○			保健体育	身体運動の効果や実践方法を学び、生活習慣病予防をはじめとして健康の保持増進に役立つことを理解するだけでなく、自己管理能力を習得する。	1・前期	20	1	○			○			○	

○			保健体育	運動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。	2・前期	30	1	○				○	○		
○			解剖学	人体の正常な基礎構造について理解を深める。	1・前後	60	2	○			○			○	
○			解剖学	人体の正常な基礎構造について理解を深める。	3・後期	30	1			○	○	○		○	
○			生理学	人体の機能とは何かを具体的に知る。	1・前後	60	2	○			○			○	
○			生理学	動物機能、神経総論、中枢神経、末梢神経、感覚器、運動器について学び、生理学全体のまとめを行う。	3・後期	20	1	○			○			○	
○			生化学	医学に必要な生命現象を理解する。生命の基本単位である細胞レベルでの代謝や、個体が恒常性を維持する体系を理解し、疾患の発生機序を理解する。	1・前後	60	2	○			○			○	
○			生化学	1年次に学んだことをもとに、国家試験対策として過去の国家試験問題を中心に解説する。	3・後期	20	1	○			○			○	
○			病理学	臓器ごとの疾患ではなく、共通する基本的な病態ごとに、その病理学的変化を学ぶ。	1・後期	30	1	○			○			○	
○			微生物学	微生物の形態、生理と機能など基礎的な分野を学び理解する。微生物と環境・人との関わりを学ぶ。	1・前期	30	1	○			○			○	
○			血液学	血液疾患の病態を理解するための基礎知識の習得。および、血液検査の概要と日常診察におけるその重要性を理解する。	1・後期	30	1	○			○			○	
○			免疫学	免疫学を理解するのに必要な生化学・分子生物学と基礎疫学の習得	1・後期	30	1	○			○			○	
○			実験動物	実験胴部の種類、解剖、生理、繁殖などの生物学的テーマの他、実験動物の疾病や実験従事者への動物由来感染症などの微生物学的課題、ならびに各種実験手技の動物への適用およびその際に必要な倫理的課題について学ぶ。	1・前期	30	1	○			○			○	
○			公衆衛生学	健康にとって望ましい環境の整備、健康の保持と積極的増進、疾病・傷害への対策、さらに社会福祉・社会保障制度を学ぶ	1・前後	40	2	○			○			○	
○			公衆衛生学	微生物学実習などで学んだ検査手法を基に、水質検査及び直品検査の中で最も基本的で重要な一般生菌数測定、大腸菌検査、残留塩素測定、大腸菌群数測定の実習を行う。	3・後期	30	1			○	○			○	

○			医療福祉概論	医療サービスの提供者として必要な福祉制度の知識を習得する。	1・後期	20	1	○			○			○	
○			医用工学概論	電気工学の基礎法則、電気電子元素、医用電子回路を中心に学ぶ。	2・前期	30	1	○			○			○	
○			医用工学概論	生体物性、生体情報の収集、安全対策を中心に学ぶ、	3・後期	60	1			○	○			○	
○			情報科学	情報処理の基礎能力を養い、情報活用試験3級の合格を目指す。	1・前後	60	2	○		○	○			○	
○			臨床医学総論	疾患の成因、病態像、特徴的症状を学び、疾患に関する知識を深める。各疾患における臨床検査の意義を理解する。	1・後期	30	1	○			○			○	
○			臨床病理学総論	疾患の成因、病態像、特徴的症状を学び、疾患に関する知識を深める。各疾患の診断・治療・予後判定に必要な臨床検査の知識を明確にする。	2・前後	60	2	○			○			○	
○			病態解析学演習	グループを作りテーマを決め、企画、計画、実習を通して、お互いに討論し協力して1つの結果へ導くことにより、実社会でのチーム医療の形態を学ぶ。	2・後期	40	2		△	○	○		○		
○			病態解析学演習	臓器別に疾患の原因や病態、それに対応する検査の方法や意義を解説。国家試験対策としての講義も行う。	3・後期	20	1	○			○			○	
○			病理検査学	病理学総論の知識に基づいて、臓器別に頻度の高い疾患について学ぶ。	2・前期	30	1	○			○			○	
○			病理検査学	病理検査の役割とその重要性について理解し、病理組織標本の作製法についての理論および技術の習得。	2・前後	90	3			○	○		○		
○			病理検査学	病理検査学の総復習。国家試験対策。	3・前後	20	1	○			○		○		
○			血液検査学	血液疾患の病態と臨床的特徴を学び、日常診療における血液検査の重要性を理解する。	2・前期	30	1	○			○			○	
○			血液検査学	血液の分化・生成の復習を取り入れながらＣＢＣなど各種実習により、この分野の化学的或いは生物学的反応を習熟するとともに科学的思考力を身につける。	3・前後	90	3			○	○		○		
○			血液検査学	1，2年で学習した基礎を基に、国家試験に準拠し、過去の問題の解説を交えながら理解を深める。	3・後期	20	1	○			○		○		

○			医動物学	人に感染する寄生虫の形態、生活史、感染経路、感染による症状および診断・検査法などについて学び、臨床検査の基礎知識を習得する。	1・前期	30	1	○			○			○	
○			医動物学	寄生虫疾患の症状、感染経路と基礎知識をまとめ寄生虫標本の観察、検査の実習を行って寄生虫学の内容の理解を図る。	1・後期	30	1			○	○		○		
○			遺伝子染色体検査学	遺伝の仕組みを十分に理解する。核酸の構造、遺伝子の構造・発現、ﾋﾄｹﾞﾉﾑを理解する。最新の遺伝子・染色体検査の基礎となる古典的技術の手技と原理を理解する。	2・後期	30	1	○			○			○	
○			遺伝子染色体検査学	遺伝子検査の原理を理解し、基礎知識を高めるとともに正しい基本操作を習得し、学ぶ喜びを知る。	2・後期	60	2			○	○			○	
○			化学分析検査学	検査に必要な知識や分析法に関する基礎的な知識の習得。	1・後期	30	1	○			○		○		
○			化学分析検査学	生化学物質の代謝を機能および臨床的意義を理解し、その測定法・測定原理を学ぶ。疾患と検査項目検査値の臨床的意義を理解する。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			化学分析検査学	各検査項目の測定原理の理解と実習。生化学的意義・臨床的意義を理解する。検査結果において基礎的精度管理の理解と実習	2・前後	90	3			○	○		○		
○			特殊分析検査学	1、2年次に学んだことをもとに、国家試験対策として過去の国家試験問題を中心に解説する。	3・後期	20	1	○			○		○		
○			一般検査学	一般検査の基本的な手技と検体の取り扱い方について学ぶ。	1・前後	90	3			○	○		○		
○			微生物検査学	各微生物の構造や性状・病原性などを理解しその検査法を学ぶ。	1・後期	30	1	○			○		○		
○			微生物検査学	微生物の構造や性状・病原性などを学び、その感染力や危険性を十分理解したうえで、検査法や手技を習得する。	1・後期	30	1			○	○			○	
○			微生物検査学	微生物の形態、生理と機能など基礎的な分野を学び理解する。各検査法を理解する。	2・後期	30	1	○			○			○	
○			微生物検査学	実習を通し、手技や基本をしっかり身につける。菌の特徴をより理解し、その感染の危険性を学ぶ。	2・前後	90	3			○	○			○	
○			免疫検査学	基礎免疫に基づき、各論、特に過去の国家試験で出題された問題に関して解説する。	2・前期	30	1	○			○			○	

○			免疫検査学	抗原抗体反応の知識を実践で体験し、生体内防御の機構を理解する。免疫化学分析法等の各検査法の原理、留意点を掌握し、基礎実習から応用までを体得する。	2・前期	60	2			○	○			○	
○			輸血移植検査学	交差適合試験医おける不適合の場合の対応の仕方・免疫同種抗体の同定法の技術の習得。輸血反応を通じ、補体の知識を習得。自己免疫疾患の種類と検査法を習得。など	2・後期	30	1			○	○			○	
○			輸血移植検査学	安全で適正な輸血療法がサポートできるように、輸血検査の基本操作のポイント・考え方を習得する。輸血移植検査学及び免疫検査学の国家試験問題を分野毎にまとめ解説する。	3・後期	20	1	○			○			○	
○			臨床生理検査学	心電図の基礎知識を習得する。筋電図検査・末梢神経伝導検査の基礎の習得を目指す。	1・後期	30	1	○			○			○	
○			臨床生理検査学	心電図の基礎の復習と確認、知識を深める。異常心電図波形についての知識と理解を深める。脳の仕組みと脳波の基本的事項について理解する。	2・前後	60	2	○			○			○	
○			臨床生理検査学	心電計の構成や医用電気機器設備の安全管理について学ぶ。心電図測定の手技と被検者への対応の習得を目指す。医療現場での脳波の取り方と判読を習得する。	2・前後	90	3			○	○	△		○	△
○			臨床生理検査学	臨床生理検査の総復習。国家試験対策。	3・後期	50	1	○		○	○			○	
○			画像検査学	超音波に必要な基礎知識と技術を習得する。	2・後期	30	1			○	○			○	
○			画像検査学	画像検査学の総復習。国家試験対策。	3・後期	20	1	○			○			○	
○			臨床検査総論	一般検査の基本的な手技と検体の取り扱い方について学ぶ。	1・前期	30	1	○			○		○		
○			検査機器総論	検査に必要な機器や装置に関する基礎的な知識の習得を目的とする。機器や装置に触れることにより、原理や構造の理解を深め、保守管理を含めた正しい取り扱いを習得する。	1・前期	20	1	○			○		○		
○			検査管理総論	医療施設における検査室の役割や業務内容、及び医療における検査情報の重要性を理解する。	2・後期	20	1	○			○		○		
○			検査管理総論	1，2年次における検査総論、検査管理総論の再復習を目的とし、模擬試験、過去の国家試験問題の解説を行う。	3・後期	20	1	○			○		○		
○			情報処理技術	数式や基本的な関数の作成、セルの書式設定、グラフ作成などExcelの基本的な操作を理解する。	1・前期	30	1			○	○			○	

○			検査技術学演習	基本的なビジネス文書作成方法やマナーを知り、効率的な文書作成を目指し演習を行う。	1・後期	20	1		△	○	○			○	
○			検査技術学演習	1，2年の知識を生かし、国家試験対策を行う。	3・後期	20	1	○			○		○	○	
○			薬理学	科学的根拠に基づいた保健機能食品に関する理解、食品と医薬品の違い、その相互作用を正確に理解し判断する能力を習得する。	2・後期	20	1	○			○			○	
○			医療安全管理学	臨床検査技師の責任及び業務の範囲を理解し、感染管理及び医療安全に配慮して、適切に検体採取ができる能力を身につける。検体採取に伴う危険因子を認識し、合併症の発生時に適切に対処できる能力を身につける。	2・後期	20	1	○			○		○		
○			臨地実習	学外の病院で長期に渡り実習を行うことにより、臨床検査技師の仕事を深く理解し、チーム医療の重要性の理解と将来の検査技師像を描くことを目的とする	3・前期	360	8			○		○		○	○
合計				46科目	2915単位時間(　　単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1）本校の所定の教育課程を履修し、その科目をすべて修得していること。	1学年の学期区分	2期
2）所定期日までに学納金を完納していること。	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。